

# TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

**Vol.20**

配信日：2020年10月16日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

会長 月岡 庸之 先生

日本歯科新聞 記事紹介

日本歯科新聞に掲載された会長・月岡 庸之先生の記事をご紹介します。

媒体：日本歯科新聞

掲載日：2020年10月6日(火曜日)

掲載ページ：4面

記事タイトル：“インプラント治療 普及・教育に努める 東京形成歯科研究会 月岡庸之 新会長に聞く”  
「コロナ禍でも知識欲・教育熱は不変」

記事内容：Emailの場合 “別添”、FAXの場合 “本状含め2枚目”

後日、当会 Web サイト(下記・アドレス)に掲載します。上記の他にも記事を紹介(掲載)しています。

<http://www.tpdimplant.com/archive/>

## インプラント治療 普及・教育に努める

# 東京形成歯科研究会

40年前の創立時から学術的理論に基づいてインプラント治療の普及と教育を続けてきた東京形成歯科研究会の新任会長に月岡庸之氏が就任した。月岡氏は、東京・練馬の開業歯科医であり、母校の日本大学松戸歯学部臨床教授でもある。会長就任の心境や抱負、コロナ禍でオンライン開催となった今年度第1回例会「今、求められているインプラント治療とは」への思いなどについて聞いた。

——会長就任の心境は

**月岡** 40年の歴史がある会の会長として、その重責と会発展のための責任感で充溢しています。施設長の奥寺元氏をはじめ会員の応援もいただいているので、展望としては明るいものがあると思っています。

——先生が入会された時期ときっかけは。

**月岡** 2000年です。既にインプラント治療は始めていましたが、エビデンスに基づいた治療をしたいとの強い思いがあって、そのため多くの学会や勉強会を見させていただき、プログラムとして学術的な部分を強調しているところに共感できたので入会しました。

——コロナ禍でのオンラインによる例会開催についての不安や期待は。

**月岡** 新型コロナウイルスという誰もが予想、体験しなかった事態が起きたわけです。

その結果、社会の構造が大きく変



月岡庸之  
新会長に聞く

ずっと大きいです。

コロナ禍にあっても知識への欲求や教育への情熱が落ちるわけではないので、それを会員に適正に供給できる体制を検討しながら維持し続けるのが、新しい時代への対応ではないでしょうか。

——オンラインによる講演会等はこれから増えてくると思いますか。

**月岡** そうなるでしょうね。現に歯科技工物製作での歯科技工所とのやり取りは口腔内カメラを使った印象、発注とオンラインが主流になりつつあります。

るのでしょうか。

**月岡** インプラント治療、市場は確立した分野になりつつあります。しかしこれまで数多く議論され、注目されてきたのは技術や性能であって、患者さん、歯科医師にとって何が一番適切な治療かについての議論はあまりされてこなかった経緯があります。

特に高齢社会で提供できるクオリティーについての議論はあまりされてこなかったように思います。10月18日のオンライン開催による例会ではそうした問題を豊富な症例に基づいて検証、その上で、今求められているインプラント治療は何かについて徹底討論することになっています。

——具体的にはどのような内容に

でなく、噛むことが人体にどのような影響を与えるかの大切さを教えているのですが、卒業して臨床現場に立つと、その根本的な部分が忘れ去られ、特にインプラント治療では手技の部分が脚光を浴びてきました。

しかし、今は基礎科学としてインプラントを捉え、何のために使うのか、どう使えば咬合を確立するのかがというように教育が変わってきているとの実感があります。

熟達した手技の方法は個人が生涯をかけて習得すればいいことで、大義はインプラントを使っての口腔機能の回復、咬合の確立にあるのです。

——会長として研究会の発展等に向けての抱負は。

**月岡** 個々の会員の能力が非常に高いことを誇りに思っています。しかし、コロナ禍にあつて、密な会合ができなくなっている状況下で、その能力をいかに集結させるかが重要なポイントになると考えています。

その能力を集結するために、今回、ウェブを使っての例会を開催することになりました。

この方法で会員の力を集結していければ、多くの学会や学術団体、研究機関と連携を図り、当協会の強みである臨床研究の成果が提案、提供できると思っています。そのために既存会員の力だけでなく、これから入ってくる若い世代の新入会員にも能力を発揮していただき、皆で会を盛り上げていければと考えています。

## コロナ禍でも知識欲・教育熱は不変

わり、講習会や実習の開催が延期、中止になりました。特に歯科界は実習や講習会でのオンライン活用が発想が乏しかったので、周章狼狽しましたが、本会では早々にオンライン開催を決め、検証し、その実行に踏み切っています。

その意味では会員の中にそうした技術や研究、教育のエキスパートがいるので助かります。彼らが横の連携を上手に取りながら少しずつ修正し、進めてきたので、オンライン開催についての不安よりも期待の方が

それに国はオンライン診断を一部解禁していますし、歯科についても問診と状況判断等はオンラインで可能なものが出てきています。

今の学生世代はユーチューブや動画配信、動画教育に慣れ親しんでいるので、抵抗なく受け入れられるというより、それが当然になるのではないのでしょうか。ただ実習を伴った教育に関しては今後の課題です。

——今年度の例会の第1回テーマ「今、求められるインプラント治療とは」には、どのような思いがあ

なりますか。

**月岡** 多数歯欠損に対してインプラントをどのように使っていくのかを症例発表での一つのテーマにしました。

つまり、よく噛めるようにすれば唾液分泌がよくなり、免疫能力のアップにつながる。そして、オーラルフレイルの予防にもつながります。安全領域での患者対応という意味でも非常に面白い会員発表になるかと期待しています。

歯科教育は本来、手技、方法だけ